

おひさしぶりの

同窓会誌 12

渾沌会

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学 同窓会

Remember



渾沌マークは芸術工学のシンボル。そのデザインは、数年に渉り、幾度か微調整されたが最終的には創設期の原型に戻った。



多謝、堂々開催 芸術工学40周年記念式典・講演会

芸工の第1期生がそろそろ定年を迎えようとする時期に「記念」すべき節目。九州芸術工科大学はいまや九州大学の一部局となったが、40年の歴史は輝かしい。

二〇〇八年五月三十一日「芸術工学40周年記念式典・講演会」を開催した。例年行われている同窓会総会の流れを受けてこの日の午後に行われた。オープニングは芸工フィルハーモニー管弦楽団の演奏。OBも楽団員に加わり、厚みのある音に参加者もスタッフも高揚感を味わう。司会進行の富松潔教授はこの慶事に礼装で臨み、心地よい緊張感を高める。最初の登壇は芸術工学研究院長の安河内朗教授。続く藤田啓晴同窓会会長は、職責交代の直後でもあり、まさに「記念すべき」挨拶となった。

珠玉の企画と評された記念講演は、東京大学名誉教授の香山壽夫先生。超多忙のなかで時間を割いていただいたこの方こそ九州芸術工科大学の設計者

の人である。当時の設計への思いを交え、芸術工学創設から激動の40年を、時に淡々と時に滑稽に語られ、聞き入る私たちにとっては、芸術工学の歴史に関わる誇りと責任を新たにされた時間だった。その後、別室にて香山先生に安河内研究院長と片野博教授を交



えた対談もおこなわれた。この40周年記念事業は実行委員会を組織して計画・実施された。メンバーは渾沌会と芸術工学研究院(教員・職員)で、時間調整に難儀しながら集まった両者の協働によって実現した。さらに今回の特徴は現役の学生サークルが積極的に関わってくれた点である。彼らへの感謝を込めて列記すると、照明屋、TRP、フォトチャンズ、REC1tab、映画研究会。九州大学芸術工学部フィルハーモニー管弦楽団は先に

厚生棟は図書館だった!



述べたとおり、記念式典・講演会を実に格調高く支えてくれた。場内の照明、BGM等の音響、記録撮影は言うに及ばず、写真展示会、芸工史のDVD制作など学生の支援なくして成功はなかったろう。ささやかなイベントだったとはいえ、芸工の集中力の一端を垣間見た。今もってよくわからない「芸術工学」だが、その開学の精神は確実に引き継がれている。少し気が早い50周年も楽しみだ。

脇山真治/画像設計6期

今日まで、そして明日から

40周年を迎えての新旧会長対談

2008年度の総会で、新会長に選任された高祖さん。東京を仕事の拠点に、福岡を生活の拠点に、行ったり来たり of 超多忙なビジネスマンである。昨今からの財政難を抱え、我が同窓会のトップマネジメントは決してラクではない。この大変な現状を承知の上で、第4代会長を引き受けてくれたことに、まずは会員一同を代表し、感謝したい。

新会長「いや〜、実のところ断るに断りきれなくて…。藤田さんとは年も近いし、おまけに藤田さんの奥様と私は画像の同期だし。住所もそばだし、いやでも、毎日、顔が会ってしまい、逃げるに逃げ切れなかったんですよ。

就任6ヶ月を経過し、役員会や随時のメール会議を通して、やっと、会運営の概要が実感できたところです」

旧会長「自分が会長役を引き受けた時は、初代の西村会長〜2代目藤元会長の脇役として、なんらかのかたちで役員活動に参加していましたから、なんとなく自然に会長役を引き受けてしまいました。ちょうど、統合問題のさなかにあったものですから、会員各位の意識も高く、総会への参加者も多かったことを覚えています」

新会長「私が総会に初めて参加したのもその頃でした。それまでは、仕事の忙しさにかまけ、ごく平常心での無関心派でした。思い起こせば、役員会との関わりのはじめは、関東支部の立ち上げでした。その頃、リクルートに就職していて、東京暮らしだったのが縁です。現在と同じく就職氷河期だったので、ほんとは焦らなくてはならない時期でした。が、自分としては、特に意識した志向もなく、恩師の大村先生のすすめもあって、なんとなく決めてしまった就職先でした。ところがその勤務地が東京となり、関東支部の立ち上げに関わるきっかけとなったのです。自分と渾沌会のつながりに運命的なものささ感じます。

最近になって意識しているのは＜絆としての同窓会＞です。例えば、自分の華僑の友人。一族が世界各地に散住していて、普段は顔すらあわせる機会もない。世代も交代し、誰が一族なのか？ 当人同士は知る由もない。なのに族長の一声で世界各地から何千人もの一族が集結するといいます。一子伝承のパスワードみたいなものがあるからなんです。同窓会も似たようなシステムではないでしょうか」

旧会長「在任中は同窓生の訃報も受けました。顔も知らないけど仲間です。立場上の関係もありますが、同窓というその接点だけで、自分は絆を感じてしまいます。自分より若い会員の訃報を受けると、さすがに悲しいものがありました。こうした訃報が、一番親密な親友からその友達へ、そして同窓会 Web へと、自然な流れで伝わって来るところに、渾沌会の魅力、会員相互の情というものをしみじみ想います。」

新会長「SNS サイト mixi に＜井尻寮＞のコミュニティが立ち上がっていますね。ここから、九大〜九大芸術工学部〜渾沌会へとリンクできます。こんなふうに、小さなユニットが自立し、孤立することなくコミュニティの輪を形成しつつ、拡張していく。芸工大らしいコミュニケーションモデルかもし



旧会長の藤田さん:音響8期(左) 新会長の高祖さん:画像10期(右)

れません。渾沌会としては、関東支部〜関西支部との連携を強化するため、サーバー統合など推進中です」

旧会長「自分が特に意識したのは会員（卒業生）へのサービスを準会員（在校生）へ拡大すること。つまり、絆の継承でした。＜座談会＞企画がそれにあたります。それなりに大変な事業ではありますが、初代の組織立ち上げの苦労や2代目の基盤作りの苦労に比べれば、たいした苦労と思えません。むしろ、活動を通して、いろいろな人とのネットワークが広がったことの方がありがたい収穫と感じています」

新会長「先代はそれなりに大変な苦労を、苦労と厭わず、こなされてきた訳ですね。会長各位も大変だったでしょうが、それを支えてきた事務局の皆さんも大変ですよ。教職の傍ら、大橋キャンパスに在籍しているというだけで、実務面の世話役を引き受けざるを得ない現状ですから」

旧会長「懸案の渾沌グッズもやっと実現みたいですね。渾沌グッズの発端は、積極的な財政改革を目指した企画でした。出版事業もアイデアしましたが、Web 広告募集など、今後は財政難を克服するためにも、守りから攻めの活動に期待したいですね」

新会長「自分にとって、同窓会とは、いわば＜卒業生のふるさと＞です。ふるさとを守るべき人間として、何ができるか、何をすべきかを考えていきたいと思っています」

旧会長の藤田さん、および旧事務局の皆様には、6年間のお勤め、ご苦労様でした。新会長の高祖さん、および新事務局の皆様には、今後とものお世話をよろしくお願い申し上げます。

* 2009年度役員メンバーの詳細は HP を参照ください

新会長のプロフィール

- ・関東支部の立ち上げに参画
- ・福岡サンパレス社長に就任し、総会後の懇親会へ格別の配慮を発揮
- ・現在は経営コンサルタント『Bright Way』を経営するかわら、ライフワークとも言えるべき Web サイト（下記）をマネジメント中

【こそだて】 www.kosodate.co.jp

【建築家】 www.kenchikuka.jp

関東から 富安悠/芸情設計 1期

関東支部は、2008年7月12日より役員改選にてメンバーを一新し、フレッシュな面々にて新スタートを切りました。前任、また先々任の役員においては、支部長は2期、役員は7期から10期を中心に構成されていました。しかし今回は、支部長は30期、役員においては、11期から23期を中心に大きく"若返り"をしています。



新役員としてまだまだ駆け出しであり、歴々の活動を振り返ったり、現時点での課題を確認したりといった引継ぎ作業に追われていますが、このメンバーだからこそできる活動の提案も行なっているところです。例えば、「20期・30期代といった同窓生中間層の同窓会活動への参加促進」や「現代のネットワーク社会にフィットし、同窓生同士が有効に活用できるコミュニティの実現」といった内容を現在検討しています。

本年は、本部や関西支部とのホームページにおける連結・統合といったことも検討していますので、関東支部に止まるとことなく活動の幅を広げていきたいと考えています。

今後の関東支部の活動にご期待ください。

■活動報告

- 2008.6.2 2008年度渾沌会本部「通常総会」出席
- 2008.7.12 「定期総会・新卒者歓迎懇親会」開催
定期総会への参加促進〔総会参加者：64名+来賓6名〕
新卒者の把握と若年層の同窓会への参加促進
〔懇親会参加者：132名（うち新卒者38名）〕
- 2008.8.30 旧役員と新役員の引継、及び、慰労・決起会開催（役員会）
随時 東京ミッドタウン「九州大学・芸術工学東京サイト」との連携検討ホームページをコアとしたコミュニティ活性化の推進

関西から 今村 滋/環境設計 12期

同窓会会員の皆様、お元気でしょうか。世間は激動、激変の様相を呈していますが、それぞれの持ち場で世の中としっかりかみ合いながら推進力を発揮されていることと拝察いたします。そう、芸工の卒業生は、ヤワやなかばい。その意気たい！



さて、関西支部の活動ですが、日ごろはネットワークの維持拡大を図りながら、定例イベントとして隔年で支部総会を、間の年に支部独自でお花見を開催し親睦を深めています。昨年(08/04/05)はお花見を開催しました。場所は大阪を代表する桜の名所である造幣局の近くにある大阪城西の丸庭園です。ピンクの幟を目印に、約20名の同窓生が

単独または家族連れで参集し、暖かい春の陽気のなかで杯を酌み交わしました。我が娘から酌を受ける同窓生の顔が嬉しそうですよ？(写真)その他の活動としては、本部総会(08/05/31)と関東支部総会(08/07/12)に役員を派遣し、さまざまな取り組みごとへの参加や情報交換を行い、交流を深めています。

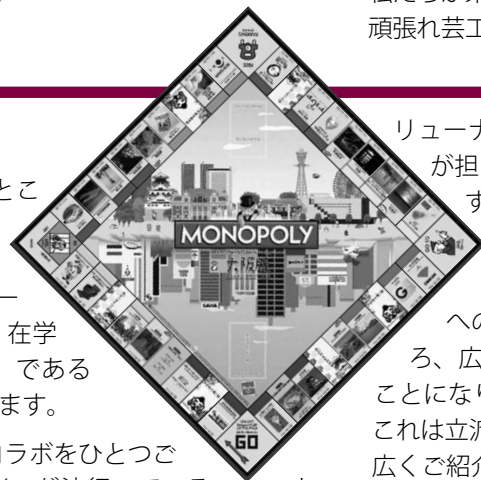
ところで、今年(2009)は支部総会の開催年です。大きな議題としては役員改選。現在の役員のうち支部長と事務局局長は、任をたまわって10年が過ぎました。そこで、(総会でご承認いただけたとして)役員の若返りをはかるとともに、改選ルールを定めて、後の活性化につなげたいと考えています。ということで、次回からこのコーナーは新支部長の担当です。新役員一同、これからも精一杯頑張りますので、同窓生の皆様からの絶大なご支援をお願いいたします。

最後に、私の寄稿も今回が最終回。そこで、日ごろ感じている感を少しだけ……。世の中は何もなければ「普通」。でも芸工の卒業生がそこにいれば、「普通」に「感動」を与えることができます。大きな「感動」は世の中を元気にし、人を幸せにします。私たちが果たせる役割は、想像以上にはるかに大きいのですヨ。頑張れ芸工生！

トピックス

芸術工学部(芸工大)が誇れるところは、各学科の立ち位置は異なっているけれども、学科同士の組み合わせによってさまざまなコラボレーションシーンが見い出せることです。在学当時から、その象徴が「ホール」であると言われていたことを記憶しています。

さて今回は趣を異にしますが、コラボをひとつご紹介します。世の中は「在宅思考」が流行っているようですが、その時間を埋めてくれる絶好のアイテムがボードゲームです。ゲームの種類は数多ありますが、その2強の一角を占めるモノポリーに昨年末「大阪版」が加わりました。企画モノで地方振興版というやつです。なんとそのボードデザインと駒デザインを工業28期の波多野君(彼は自らデザイン事務所(ブ



リユーナク(<http://brionac.jp/>)を立ち上げて活動中)が担当しました。駒を進める際には、当初より大阪を代表するアイテムや企業群が名前を連ねる構想でした。

そこで日ごろから交流のあった12期生へ照会しました。そこからは2人で(芸工の「ノリ」で)本企画への参加意義を練り上げ所属する企業内に発信したところ、広報部門が「ノリ」に共鳴して賛同し2枠も協賛することになりました。結果、企画の大いなる推進役となりました。これは立派なコラボですよ。

広くご紹介したいのはヤマヤマですが、残念ながら店頭には並んでいません。興味のある方は下記をご参照のうえ、もし気に入っていただければ、芸工の「ノリ」でひとつ購入してみてください。よろしく願いいたします。

<http://osakamonopoly.jp/index.html>

『私の仕事』LIVE版! 2008

年々充実! 荒野を目指す学生諸君に、ホンネの芸術工学最前線をプレゼント!!



芸術工学座談会運営事務局
河原一彦 (音響 16 期)

工業・画像設計学科 合同テーマ

会社で遊べ! 仕事を楽しくこなす方法

語り部: 豊嶋仁 (工業 19 期) Vs 江口カン・竹清仁 (画像 20 期)

今回は、エプソンの豊嶋さん (工業出身)、KOO-KI の江口さん (画像出身) と竹清さん (画像出身) にお話をして戴きました。プライベートで仲が良いことが高じてエプソンのさまざまな映像を KOO-KI が制作するなど、公私ともにお付き合いが深い 3 人の先輩による、「私の仕事 Live! 版」初の他学科出身者同士のコラボでした。ということで、息がピッタリ合ったトークで会場は終始大盛り上がりでした。

しんどいくらい遊んで、しんどいくらい仕事をする

まず豊嶋さんですが、時計のプロダクトデザイナーとしてエプソンに入社され、現在はグラフィックのディレクターをされているそうです。豊嶋さんのモットーは、「しんどいくらい遊

良い人に出会うとそこからまた良い人につながる

会場では、たくさんの映像作品を見せていただきました。“鹿児島スイッチ” といえば、皆さんも良くご存じの CM だと思います (あ! 九州限定か! ?)。Yahoo! ドームのホークスビジョンに流れる映像や、トヨタカップ (サッカー) で国立競技場のオーロラビジョンに流れたという映像は、ほんと感動ものでした。個人的には、YouTube で配信されたナイキの CM (NikeCosplay) が、とっても気に入りました。「仕事を通して良い仕事をつかむとまた良い仕事が出てきて、良い人に出会うとそこからまた良い人につながる」という言葉は、私たちがこれから社会に出て仕事をしていく上で、頭においておきたい言葉だと思いました。

レポート/工業 4 年 安達誠寛



んで、しんどいくらい仕事をする」だそうで、会社の利益と自分のやりたいことをいかに絡めて仕事をするかが大切だということを力説されました。商品のプロモーションビデオをつくる仕事のときは、美しいモデルさんと仕事をするのを楽しみにしてモチベーションを高めたり、夜遊びをしたいがために、六本木のクラブにプロジェクターの市場調査に出かけたり (こんなこと書いてもいいのかなあ?)。そうして、実際にそれらの調査結果を生かしたものが製品化されたそうです! 結果もちゃんと出しているんです。本当に仕事に遊びにすべてにおいて楽しんでいる様子が伝わってきて、男としてカッコイイ生き方だなあと憧れてしまいました。

楽しみ自体を仕事に

つぎに KOO-KI のお二人にお話をいただきました。卒業後フリーで仕事をしておられた江口さんと、大学で助手をされていた竹清さんが意気投合して、空気モーショングラフィックス (現、KOO-KI) という映像の会社を興したそうです。お二人は、豊嶋さんとは違って、仕事の中に楽しみを見つけて仕事をするのではなく、楽しみ自体を仕事にしてしまったのだそうです。楽しみや趣味を仕事にできるなんていいなあ〜と漠然と思っただけでしたが、こんなに有名になったいまでも、色々な不安と戦いながら、それでいて楽しく仕事をしている様子がヒシヒシと伝わってきました。

環境設計学科テーマ

拡がり、繋がる芸術工学の DNA

～情報産業の現場から～

語り部: 安部 雄一郎 (9 期) Vs 山本 博 (10 期)

『環境=建築』。これが私の環境設計学科に対するイメージであったし、多くの皆さんもそう感じていると思う。今回のお話はこのイメージを覆し、私に今までとは違う視点で『環境』を捉えさせてくれた。現在、就職活動を行っており、『環境=建築』という狭いイメージに戸惑いを感じていた私にとって、環境設計を出て建築以外の現場で働いているお二人の話はとても貴重な話であった。

『環境』を捨てて拡がる『環境』の新分野

まずは、データスタジオ株式会社の戦略事業グループで働いている山本 博さん。今の会社で働くようになったいきさつや、建築とは違う現場において環境設計で学んだことがどのように活かされているかを話してくださった。

山本さんは卒業後、建築関係の仕事についたが、バブル崩壊の影響を受けて、「今までやってきたことを活かして違う道を歩んでいこう」と情報産業の道に進まれたそうだ。人々が楽しく過ごせる空間を作りたいと思っていた山本さんに、一緒に仕事をしていた通信産業の方が、「僕らは目に見



業務用デジタル音響機器の開発と営業の現場から

語り部：藤田 啓明 (情報伝達専攻 21 期) Vs 菅野 重信 (賛同出演)

*菅野さんは本学 OB ではないのですが、本学 OB のみなさんのお仕事のお付き合いが多く、芸工の卒業生の気質を良くご存知だということで、出演頂けました

えるものは作ってないけど、電話線を通して笑い声が響く環境を作りたいと思っているんだよ」と話して下さったことがきっかけとなった。山本さんは、いろいろな立場の方の話をまとめるということ、立体的に物事を考えていく発想、これらが今からの時代に必要だと考えていた。建築は施主や施工管理者など様々な人と会い、その人たちの意見をまとめるコーディネーター的な仕事である。また、プランを立てる上での試行錯誤の繰り返しはこれからの社会で大切になる。様々な人の意見を聞き、自分がやっていることを消化して展開していく、そういう形の訓練を気づかないうちにされているのだと言う。

芸術工学の原点は芸術と工学を繋ぐコーディネーター

次に、朝日新聞社の広告担当をされている安部 雄一郎さん。なぜ、環境設計学科を出て、新聞社に入ったのか、入社してから本校で学んだことがどのように活かされたかを話して下さった。

建築設計という作業は、考え、悩み、最後に形におこすまで膨大なエネルギーが必要だが、それが足りなかったのか、在学中、自分なりの結果を残すことができなかった、また、デザインに対するセンスや感性で、同期の人の中に「この人には、かなわないなあ」と感じたこともあった、という。自信が揺らぐ中、将来を考え悩んだ結果として、建築から離れて新聞社というマスコミの世界に飛び込んだそうだ。新聞広告の仕事は、広告を決める上で、クライアント

今回お話ししていただいたのは皆さんご存じ、あのヤマハ株式会社で業務用デジタル音響機器 (Commercial Audio : CA) の開発及び営業に携わっているお二人。開発現場から音響 OB の藤田さん、営業現場から菅野さんから、CA についてそれぞれ非常に興味深いお話を伺いました。

音響設計学科の学生には音響機器に関心が高い人も多はず。会場には下は入学したての 1 年生から、上は音響 1 期の大先輩まで多くの方が集まり、お二人の話に興味津々。かく言う私もサークルなどで音響機器を扱った経験があり、個人的に非常に楽しいお話でした。

スタンスは「何でも屋さん」

まずは CA 営業部菅野さんから CA の営業について。一口に営業といっても、CA 営業は私たちが一般に想像するノルマに追われるようなものとは違い、菅野さん曰く「何でも屋さん」なのだそうです。顧客からの要望に対する対応、代理店を通しての



とデザイナーのコミュニケーションが重要になるが、クリエイティブに関しては両者が共通に理解できるボキャブラリーが限られているため、デザインの良し悪しや、方向性などの意思疎通が難しいケースがある。しかし、クライアントの要求とデザイナーのコンセプトを結び付けなければ、デザインは宙に浮いてしまう。間に立つトランスレーター (翻訳家) が必要である。クリエイティブを読み解き、読み解いたものをわかりやすい言葉に変える力が必要とされる。これにはトレーニングがいる。

トレーニングは学科を超えて

本校はいろいろな人が考えた物の形に触れ合う機会が多くあり、芸工生はいろいろなイメージの蓄積があるため、自分が物の形に対してどう判断できるかを知っている。判断したものを他人に伝え、コーディネートしていくトレーニングを、在学中に他の学科の人と行うとよい。本校では、空間や物の形を言葉にする能力を養うことができるのだ。

建築業界から離れて働いているにもかかわらず、本校で学んだことが活かされているとお二人は話して下さった。本校で学び受け継がれていくもの、すなわち DNA は様々な場面で応用できるものである。これから社会人になる私も、本校の DNA を発揮していきたい。

レポート / 九大芸工 2 期、芸工 38 期 高野 美紗子

販売、セミナーや展示会の実施などそれは多岐に渡り、もちろん飛び込み営業も行うそう。菅野さんの話の中で印象深かったのは、私たち学生に対しての「人より抜きでたものを持ってください。」というお言葉でした。菅野さんは飛び込み営業で放送局に多く赴き、「放送局のことなら菅野に」というようになったのだとか。結果、多くの情報が自然に入るようになったそうです。菅野さんは簡単におっしゃいましたが、その裏にあった努力や困難は私たちの想像をはるかに超えたものでしょう。そんな経験からのお言葉には非常に胸打たれました。そんな熱い話は気づけば予定時間を大幅にオーバーしておりました (笑)。

まず「信頼性」、最後に「音質」

続いて PA・DMI 事業部の藤田さんから開発についてのお話。私がまず興味深かったのは CA の仕様において重要なのはまず「信頼性」、次に「操作性」と「柔軟性」、そして最後に各社の特徴がでる「音質」であるということでした。音響を専門に学ぶ私たちとしては音質に対してこだわりを持ちたいところですが、実際の現場ではどんな過酷な状況下でも信頼されるものでなければ使い物にならないそうです。まずは、演目に穴をあけることがあってはいけません。そこに、プロとして音を扱うエンジニアや、機器を提供する方の高いプロ意識を感じることができました。

ユーザーの要求は時代の流れによって変化し続ける

さて、お話はヤマハの推進するデジタルミキサー、そして将来のCAの話題へ。ヤマハは20年前からデジタルミキサーを開発し続けていましたが、05年にアナログユーザーでも使いやすい仕様のデジタルミキサーを開発することでようやく普及し始め、その結果デジタルに対する理解がかなり深まったそうです。しかし、ユーザーの要求は時代の流れによってさらに変化し続けており、「開発する側としては、その変化を見据えて、5年先10年先にも通用する仕様を考えることが重要である」とおっしゃっていました。では、これから10年先、いったいどのような世界になっているのでしょうか。藤田さん曰く「キーワードは集中コントロール。これからはミキサーでパワーアンプもリモートコントロールできる世界になるでしょう」と。実際に企業はこの世界に向けて開発を進めているらしく、近い将来、そんな世界が本当に実現するのかもしれませんが、個人的にはそんな中でもアナログ機材も忘れ去られてほしくないなと思います。菅野さんもおっしゃっていましたが、これから若い人たちがアナログの本物の音を知らずに、デジタルの音しか知らないという状況になってしまうのは、寂しいように思えるのです。ちょうど分岐点にいる私たちは、幸いにもどちらの音にも触れる機会がたくさんあります。そんな機会を少しでも逃さず、ただただ貪欲に本物の音に触れていきたいなと心から感じました。

能動的に学ぶことによるのみ得られるもの

今、私たちはいろいろなものに触れる機会があり、様々なものを吸収できる時です。「この大学の学生はここを卒業しただけで十分に人より抜きん出ることができる。」菅野さんの初めの発言を受けて、藤田さんが最後におっしゃいました。ただしそれは、どのようなことにも能動的に学ぶことによるのみ得られるものであると。この言葉を心に刻み、私自身残り短い間ではありますが、貪欲に様々なものを吸収していきたいと思います。最後になりましたが、今回このように改めて音や学生生活に思いを巡らせる機会を得たこと、そして何より、貴重なお話を聞かせていただいたお二人に心より感謝致します。ありがとうございました。

レポート／音響 38期 園木朗弘

芸術情報設計学科テーマ

情報のかたちをデザインする

～デジタル社会のクリエイティブ～

語り部：吉田真也（4期）Vs和気正明（2期）

今回の懇談会に来て下さった講演者は、(株)キャドセンターのクリエイティブスタジオに所属されている吉田真也氏と(株)大日本印刷デジタルコム在和気正明氏。両氏は30代手前の若さでもあり、私達と近い視点で『芸術情報設計学科とは何か、そして何が得られたか』を語って下さり、学生と社会人としての二つの立場からの討論を交えた楽しい懇談会になった。

技術的分野においても必要とされるアーティストとしての視点

吉田氏は現在、デザイン形状、システムの仕組みの設計から、それを実際に動かすプログラムにまで渡っての制作をされている。愛知県犬山市にある犬山城のプロジェクトでは、犬山城周

辺の江戸時代の様子をCGで復元し、タッチパネルを用いてインタラクティブに操作、閲覧できるようになっている。観光案内所に設置することで、観光客が自由に触って楽しみながら、当時の町の様子や建築等への理解を深められるものとなっている。氏にとっての芸術情報設計学科とは、システム開発のような技術的な分野においても、アーティストとしての視点を持ち、情報をデザインする能力を得られる場であり、それは社会においても大きな強みになると、仕事現場での体験談を交えて語って下さった。

学生時代は自分探し

和気氏は、ルーブル美術館との共同研究で、インタラクティブメディアを使った展示に関する研究プロジェクトの制作ディレクターを担当されている。情報設計学科では、工学的な基本技術から、人間の感性に訴える芸術の分野にまで幅広く学ぶことができ、授業の演習では、コンセプトからデザイン、そして実際の制作まで、全てのポジションを経験することができる。氏にとっての学生時代は、広い分野に渡った授業を通して、自分がしたいことを見つける自分探しであり、そして最終的には、広い視野を持ち、客観的な視点から情報を設計する力を得られたと仰っていた。



芸工の特徴として、様々な分野を幅広く学べることが挙げられるが、専門分野に特化した学生に出会うと不安になることがある。しかし、実際の現場では、工学的な知識も兼ねそろえた総合的な設計者が求められることが多いという先輩の言葉に、芸工生として学んできたことに自身を持つことができた。

テクノロジーと人をつなげて、リアルな感性に訴えるような経験を生み出すためにデザインがある。これは芸術とテクノロジーにはない特徴であり、デザインによって新しいテクノロジーは想像力豊かに、日常で信じられるものになっていく。これを実現する環境が芸術工学なのではないか。また情報をデザインするという一つのテーマの中でも、様々なアプローチの仕方があり、同じ講座に属していても、多種多様な世界に広がる大きなビジョンが感じられ、心を駆り立てられた。今回の懇談会を通して、自分を探究し、将来を考える場として、大学生活が恵まれた環境であることを再実感し、今の自分、そして未来の自分について考える良いきっかけとなった。多忙の中、懇談会に時間を割いて、様々な視点から考える機会を下さった先輩ご両人に感謝致します。

レポート／芸情 4年 武田十季

同窓会 自主企画：熱い想いを語り継ぐ『芸術工学 座談会』

「あの人の声が聞きたい」募集中

会員が推薦したいパネラーを待ってます。

●私的デザイン論 ●人生哲学 ●学生諸君への叱咤激励 なんでも OK。

詳細は事務局までお問い合わせください／同窓会 HP メールにて
*メールには、氏名・出身学科・入学期をお書き添え願います。

ご協力ありがとうございました 2009年版同窓会名簿が完成しました

新年早々、自宅に最新版の名簿が届きました。「分厚くなったなあ〜。」というのが第一印象です。九州芸術工科大学が1968年4月に設置されて40周年を迎え、芸工大の学部・大学院と九大芸術工学部を含めた卒業生は6,000名を超えました。名簿では、先輩・後輩が各所で活躍している様子が伺え、私自身、しばらく時間を忘れてページをめくりました。

思い返せば、過去においてこれほど慎重に議論を重ねて発行した名簿はありませんでした。インターネットや携帯電話の普及、さらには個人情報保護法の施行など、昨今の社会背景を踏まえた名簿不要論もありました。しかし、名簿の整備～発行は同窓会活動の根幹をなす重要な事業であるとの判断から、最終的には役員会において名簿発行が決断されました。

今回の名簿は、九州芸術工科大学と九州大学とが統合して以来、初めての同窓会名簿です。この名簿には、統合後の九州大学で芸術工学を学んで卒業した若い会員や、現役学生も名前を連ねています。同窓会規約の前文で宣言されているように、渾



沌会は、「入学時の大学名称を問わず、芸術工学を学んだもの同士が交流を深める組織」です。芸工大卒と九大芸工卒・現役学生が一覧できるこの名簿は、さらなる芸術工学の発展に役立つと確信しています。

冒頭でも触れましたが、本年度は芸術工学40周年の節目の年です。この節目の年に、同窓会名簿を発行でき、大変喜ばしく思っております。これも会員の皆さま方のご協力なしでは成し得なかったことです。特に賛助金へのご協力は、予想を遙かに上回るものでした。おかげさまで、もっとも危惧された収支は若干の黒字となる見込みです。改めて会員の皆さまのご協力に深く感謝いたします。

●●●追加申し込み受付中●●●

事務局では名簿の予備を若干部もっております。購入し損なった会員の皆さまには先着順で販売致しますので事務局までお問い合わせください。なお、名簿増刷はしませんので、予備がなくなり次第、販売終了となります。



渾沌 GOODS 第1弾発売開始

●●●購入希望者受付中／FAX●●●

ReMember 前々号で告知を行い、ご応募頂いたグッズ候補を練ってカタチになるよう会議を重ね、遂にデビューとなりました！第一弾はカップです。大小ペア、焼酎を飲むだけでなく、いろいろと“使えそうな”サイズです。制作者は、工業設計学科3期の広川隆氏。山口市で工房を営まれています。詳細は渾沌会ウェブサイトにも掲載されていますが、ここで、広川氏の今回の作品についての思い入れを語って頂きましょう。



「まず、芸工大に陶芸という分野はなかったけど、工業設計を出たという視点は今でも息づいてますよ。陶芸というか、僕の陶磁器は、普段使いというところにとっても力を入れてるんです。テーブルウェアデザイン、って概念ですね。食器って、食器棚に重ねてしまったりするでしょ？そのしまうという行為に対して、効率的にしまえるし、しまってもキレイに見えるし、というのが大事。もちろん、使うときにも使いやすい。けど、そんな機能重視ではなく、パツとみた感じもイイモノであることは大前提ですけどね。学生時代に学んだデザインが、今の僕の陶磁器には反映されてると思ってます。もう、カップとしてだけではなく、普通に自由に使ってもらいたいですね。」

さあ皆さん！どしどしご応募ください！

ReMember On Line



渾沌会関東支部・関西支部のウェブサイトが稼働し始めたことを受け、2006年度に渾沌会の本部サイトをリニューアルしました。その年度末には、リアルタイムのReMemberとしての、新たな会員交流サイト「ReMember on the WEB (www.kyushu-id.biz)」も立ち上げました。

今後は、芸術工学40周年、渾沌会グッズ第一弾の登場を契機として、<渾沌会ウェブサイト>全体を見直そうと考えています。まずは、支部間の連携を密にするためにサーバーを統一します。具体的には、現在の関東支部サイトのドメインを主体とした、konton.jpが渾沌会のポータルサイトとなります。これにより、経費削減と相互の情報共有速度を高めることができます。そして、それぞれが企画し熱望している、会員同士の交流を促進します。渾沌会は、懐かしさを共有するためだけでなく、例えば芸術工学を学んだ仲間との今を“ビジネスに直結”できるような発展的同窓会組織であることを目指します！

さて、有償ではありますが、会員の皆様のビジネスを「ReMember on the WEB」でPRして頂けるようになりました！同窓会名簿も新しくなったこの機会に、プライベートでもビジネスでも交流が発展していくことを、渾沌会ウェブクルー一同願っています。



牧野剛己（音響27期）

渾沌 GOODS 第2弾デザイン&マネジメントプラン募集中！

何を創ろう？どう使う？いくつ造ってどう売ろう？あなたの芸工スピリッツをご披露くださいませ！

●問い合わせ先：河原／同窓会 HP FAX(092)553-4520

2008年度 通常総会レポート



2007年度事業の決算報告、及び2008年度事業計画と予算案は、議案通り、可決いたしました（詳細はHPで確認ください）。

・収入総額 8,248,338円 *うち督促会費入金 620,000円
 ・支出総額 8,248,338円 *うち次年度繰越金 4,489,286円
 会費徴収の努力が功を奏し、懸案の活動費の目減りに歯止めがかかりつつある状況です。今後とも、財源の確保と併せて活動のあり方について、多くの会員の方からのご意見やアイデアをいただきたく思います。あわせ、通常総会には、より多数の積極的な参加をお願いしたいと思います。

名簿発行

これまでは5年に1度の発行～無償配布を原則にしておりましたので、約500万円規模の事業でした。財源はもちろん、通信の状況変化もあり、この原則を2年にわたり見直し続けました。その結論として、今回は有償配布を決断しました。かつ支出抑制のため、名簿業者とは特別契約を締結して、2009年1月の完成予定で進行中です（無事完了）。

芸術工学座談会の開催

芸術工学月間（芸工大創立の6月）の恒例行事として定着してありますが、2006年度からは「ホームカミングデー」という大学の行事としてオーソライズされてます。2008年度の特徴としては、2学科（画像+工業）共同開催を盛り込んだことです。参加人数も増え、より活性化を図ることができました。



懇親会

今回は大橋キャンパス多次元棟にて開催。学内会場という便利さもあり、多数の学生（準会員）たちの参加がありました。また、40周年記念セレモニーへの多数の来賓もお迎えすることができ、大変盛況なものとなりました。会場設営や会食準備など、それなりに大変な作業でしたが、参加された各位に喜んでいただけ、その苦勞が報われた想いです。



活動報告 / 本部

- 2007.06.02 2007年度通常総会・懇親会の開催
2007年度芸術工学座談会「私の仕事 Live版！」企画・実施
通常総会懇親会への若年層参加促進
*座談会会場での直接の呼びかけ
- 2008.02.01 同窓会報「リメンバー」第11号の発行
- 随時 会費管理・徴収検討（督促の継続）
名簿メンテナンス～発行への着手
2008年度芸術工学座談会「私の仕事 Live版！」企画・準備
渾沌グッズの具体化検討
渾沌会WEBの充実～外部サーバの導入検討
次期会長候補の選出

活動報告 / 関東支部



- 2007.04.21 2007年度関西支部「定期総会」出席
- 2007.06.02 2007年度本部通常総会出席
- 2007.07.07 新社会人懇親会開催
- 随時 東京ミッドタウンデザインハブ「九州大学・芸術工学東京サイト」との連携強化
2008年度関東支部「定期総会」準備
WEBサイト活用及び運営資金拡大施策検討／本部との連携
若年層会員の参加による活動の活性化
・支部圏内在籍者の把握と懇親会の推進
・2007年懇親会実行委員会を結成
・2007年度学年幹事5名を選出
→ 2008年新社会人懇親会実行委員会を発足
弔電送信（2名）

活動報告 / 関西支部



- 2007.4.21 関西支部定期総会開催
- 2007.6.2 2007年度本部通常総会出席
- 2008.3 若年層会員の参加による活動の活性化
「新卒者歓迎会」、「お花見懇親会」の準備
- 2008.3.25 九州大学芸術工学部「卒業式」への参加
- 随時 関西支部Webサイト更新



みんなで創る Web 版リメンバー

本部、関東支部、関西支部ともに、リンクしてまず
 現況（勤務先・住所などの登録情報）は、WEBから更新可能です

2009年度 総会開催 6月6日(土)

●詳細は同封の案内を参照ください

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学同窓会会報 12
 ■同窓会事務局発行 2009.3.1
 ■編集長 佐伯正繁（画像2期）
 ■取材＆写真協力 OB先生他オールスタッフ